

Series

聞

シリーズ：聞く

く

Vol.2



三木市  
加古 房夫 市長

HSKS ARCHEでは、北播磨での市民活動にご理解いただき、支援されている方、あるいは活動されている方々に対し、シリーズ「聞く」と題してインタビューを行って参ります。

第2回目は、平成17年1月18日に加古房夫三木市長にお伺い致しました。

■質問 北播磨の魅力はということだと思われませんか？

●加古市長 広大な土地と美しい自然がたくさんあり、そして人材が豊富だということがあげられると思います。

■質問 実大三次元震動破壊実験施設がまもなく完成しようとしていますが、この施設ができることによってどのような効果もたらされるとお考えですか？

●加古市長 4~5年前、各大学の教授が研究を重ねて、約550億円をかけて文部科学省により作られました。施設では、800tのコンクリートを下から油圧で震動させる、という仕組みになっており、木造の建物を実際に建設して、地震の際にはどのような動きになるのかを震動をあてて実験しています。これだけの実験をできる施設は世界でもここだけしかありません。今までの研究ではできなかつたことが解明されていくと、私は思っています。この実験装置による研究の成果によって、震度に合わせた建築工事ができ、合理的な建物ができるのではないかと、そして生活文化にさまざまな効果が出てくると期待しております。

その研究にあたり研究者をはじめ、様々な人が三木市を訪れる。この施設が三木市における人々の交流の場となり、経済効果をもたらす他、様々な知恵をいただけることができるのではないかと期待しています。そこで得た知恵をどれだけ市民の生活に生かしていけるのかということが今後の課題だと考えます。

更に、施設における研究だけでなく兵庫工学研究センターを設置し、様々な勉強会を開催しているので、ぜひ北播磨の皆さんにも訪れていただきたいと思っております。

■質問 加古市長は市民活動に対してどんな思いを持っておられますか？

●加古市長 市民活動には、大いなる期待を持っています。今まではあらゆることを行政がしないといけないという感があったが、市民団体がそれぞれ目標を持って行政のできない部分を補ってくれている。行政がサポートするというよりも行政と共に活動し、互いにカバーしあいながらやっていくことができることを期待しています。



震災以降NPOや、ボランティア団体の必要性を市民の皆さんが認識しつつあるのですが、神戸の震災では人と人の絆、結束力がいかに大切かという認識が多くを占めました。震災の影響を受けたとはいえ、それほど被害がない北播磨の地で、行政が建物を、支援センターのようなNPO法人に管理運営を任せるといった全く未知の試みに挑戦していることは、非常に重要なことであると思っております。行政も市民活動に期待しており、互いに努力して目標に向かって進めるよう市民活動、市民団体をコーディネートする組織の必要性を感じています。

■質問 中間支援組織であるNPO法人北播磨市民活動支援センターという組織についてどう思われますか？

●加古市長 「目標に向かってがんばっていただきたい」ということ。これが時代の流れでもあり、市民の声に応える施策のひとつであるから、何とかそれに沿えるようなかたちで、行政もやっぴいかなければならないと実感しています。われわれは行政の施設の今後のありかたを考えていかなければならないが、小野市が先陣をきった公設民営のこの施設の管理運営が成功すると、他の自治体もこれに続くのではないかと考えます。1つの団体ではできないことも2つの団体ではできる、ということもあります。そういったコーディネートをするのが中間支援組織の役割だと考えています。「北播磨」という名前のおり、行政の枠を超えて活動の場を広げていかれることを願います。また、働く喜び、できる喜びを感じながら活動をして、皆さんのアイデアとネットワークで市民活動の輪を大きなものに育てていただきたい。支援センターでは、たくさんのボランティアの方が活動されているとのことですが、どのような運営をされるのか、興味深く拝見させていただきます。

行政マンが働くわけではなくても、行政は皆さんにお金を払っているのだから、費用がかかっているということは事実だと思っております。「施設がいい」というのと「運営する」というのは別だと考えられるので、小野市が今後どのような運営をしようとしているのか非常に興味があります。今の時代、建物を建ててその借金を税金から返していかなくてはなりません。支援センターの皆さんが、あれだけの施設を管理運営される手腕に期待しています。

団体会員紹介

Introduction of member of group

今回から、何度かにわけてksks Archeの団体会員さんのご紹介をさせていただきます。(登場する順番は不同です。)

(社)小野加東青年会議所

日本の青年会議所は、1949年に明るく豊かな社会の実現を理想とし、次代のリーダーとなる責任感を持ち、お互いに切磋琢磨しようという情熱を持った青年有志によって設立されました。その後、共に向上し合って社会に貢献しようという理念は瞬く間に全国に拡がり、各地に青年会議所が設けられました。現在、全国に739の青年会議所があり、よりよい社会づくりを目指して、ボランティアやまちづくりから行政改革、地方分権などの社会的課題に積極的に取り組んでいます。

青年会議所の最大の特質は会員の年齢制限にあり、満20歳から40歳までであることを要しています。この素晴らしい年齢制限ゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することが出来るのです。青年会議所は単に社会奉仕を行う団体ではなく、未来を目指し、より良き明日を目指して我々の住む地域社会・国家・世界のために、常に進歩への挑戦を行う団体です。

(社)小野加東青年会議所は昭和39年に設立され、以降この小野加東の地で様々な活動を行っております。我々は、NPO法人北播磨市民活動支援センターの団体会員として、これからもこの地域の皆様と共に、愛するこの地域が更に住み良く、明るい豊かなまちとなるよう活動していく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

小野市国際交流協会

1987年に小野市によって設立された小野市国際交流協会は、主に姉妹都市米国カリフォルニア州リンゼイ市との間に親善訪問使節団を相互に派遣してきました。現在は、これまでの姉妹都市交流の伝統を引き継ぎながら、更に内容を充実させ、北播磨地域でも特色のある協会を目指しています。

2003年5月からは、会員制協会として協会会則が制定され、会員制協会がスタートし、現在個人会員160名、企業会員6企業、団体会員2団体から成っております。会員は、5つの部会(企画運営部、姉妹都市親善部、語学講座部、共生事業部、青少年育成部)に所属し、担当理事と共に新事業の企画・運営に参加できます。また、各種イベントへの会員割引も実施しています。

主な活動は、姉妹都市交流をはじめ、共生事業としての「ひまわりフェスタ」への民族料理屋台の出店、日本文化体験、スポーツ交流目的の「外国人とのふれあい会」、国際理解を深めるための「国際交流の集い」「国際料理教室」、支援事業としての「日本語教室」があります。

これまでの3年間で小野市および近郊在住の延べ180名の外国人の方が学習に参加されました。日本語学習以外に、生活相談も受け付けています。又、生きた日本語を学ぶためのバスツアーなども実施されました。

その他、協会自主事業として、日本人対象の外国語講座(英語、韓国語、スペイン語、中国語など)、ヨガ教室、「ALTとの交流会」を開催しています。



小野まつり検討委員会

平成16年8月21、22日に開催いたしました、市制50周年記念第27回小野まつりは、市民の皆さん、実行委員、各区長、協賛事業所の方々等、多くの皆様に支えられ、市内外から計14万人の来場者を迎え、盛大に開催することができました。

昨年は小野まつり5ヶ年計画の完成形を迎える年となりました。5年間を振り返ってみますと、1年目は「見る」から「参加する」への転換を予想させる「胎動」の年に、2年目は「おの恋おどり」をスタートさせオリジナリティと新たな参加機会を創り出した「誕生」の年に、3年目は参加から意識が一步前に出た参画を実現した「進化」の年となり、4年目は理想の小野まつりへ羽ばたく「飛翔」の年と位置付け、初の2日間開催としました。そして5年目の昨年は、まつりの完成度を高めるとともに、新たな飛躍に夢を乗せて「未来」を予感をさせるまつりとし、今後の小野まつりの方向性を示すものとなるようにしました。

小野まつり検討委員会は、現在22名の委員によって運営され、1年間を通じて、小野まつりのイベント内容、スケジュール、予算等の検討を重ねております。昨年11月より今年の第28回小野まつりに向け具体的な作業に入っています。

今年は、小野まつりに参加された方、来場された方、すべての方を心からお迎えさせていただこうと「迎心」の年といたします。すべての方に感謝の気持ちをもって接し、小野まつりを運営してまいります。

昨年度より、事務局機能をNPO法人北播磨市民活動支援センターに移管し、市民参画の機会を拡大し、より多くのボランティアスタッフの皆さんにもご参加していただきやすい環境になりえたのも、「郷土を愛する人たちの誇りとなるために」という小野まつりの原点をご理解いただける仲間が増えたからこそであると感謝しております。

今後とも、市民の皆様が参画意識がより一層広がりますことを期待いたしますとともに格別のご理解、ご協力をお願いいたします。